

教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和6年5月9日（木）15:05
小倉北区役所6階 教育委員会会議室

1 開 会

2 案 件

(1) 議案

議案第3号「2025年度（令和7年度）使用教科用図書の採択基準及び選定
資料、採択方針について」 (学校教育課長)

(2) その他報告

① (秘) その他報告①「次期教育振興基本計画の策定状況について」 (企画調整課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- 1 開催年月日 令和6年5月9日（木）
- 2 開催時間 15：05～15：43
- 3 開催場所 小倉北区役所 東棟6階 教育委員会会議室
- 4 出席者 (教育長) 田島 裕美
(教育委員) 大坪 靖直、郷田 郁子、香月 きょう子、中島 良、清成 真
- 5 事務局職員 教育次長 高松 淳子
総務部長 大庭 千枝
学校教育部長 藤井 創一
教育相談・特別支援教育担当部長 有田 勝彦
総務課長 久保 慶司
企画調整課長 栗原 健太郎
学校教育課長 武藤 佐予
特別支援教育課長 森永 勇芽
- 6 書 記 総務課庶務係長 桑本 清
総 務 課 中島 遥香
- 7 会議の次第 別紙のとおり

教育委員会(定例会)会議録 (令和6年5月9日)

1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、香月委員と清成委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・その他報告①「次期教育振興基本計画の策定状況について」

(大坪委員一時退出)

3 案 件

(1) 公開案件

議案第3号「2025年度(令和7年度)使用教科用図書の採択基準及び選定資料、採択方針について」

本議案の提案理由を学校教育課長が説明。

[提案理由要旨]

教科用図書の採択基準、方針等について付議するもの。

清成委員／教科用図書採択の仕組について、教科用図書選定会議が設けられ、その中に「総括部会」と「専門調査研究部会」ができるとのことだが、これらの部会は、教科ごとにその部会ができるのか、1つだけのものか。資料では教科ごとにできるように見えるが、どういう仕組か。

学校教育課長／「専門調査研究部会」では、各教科の選定を行う。これを持ち寄り、「総括部会」にて、各教科の部会長を含む構成員が集合し、お互いの内容を確認し、公正公平に採択していく。よって、「専門調査研究部会」は教科ごとに選定、「総括部会」が、それらを総括的に選定する仕組である。

清成委員／承知した。

中島委員／資料1の図書採択方針(案)について。3番目に「採択方針をあらかじめ公表する」との表現がある。この採択方針の中にも「採択方針をあらかじめ公表する」という文面があり、何を指しているのか不明。この採択方針(案)を示すのか、それとは別に「こういう基準で採択する」というものを公表するという意味か。

学校教育課長／この採択方針については、国及び県の採択方針について公表されている。併せて、北九州市における採択方針についてもあらかじめ公表し、採択を行うという意図である。

田島教育長／中島委員の質問は、この文章を読んだ時に分かりにくいので聞いてみたことである。この場の口頭のみで内々にするのではなく、最終的にはフルオープンにすることを宣言と捉えてよいか。

学校教育課長／最終的に採択が終わり、選定結果を含め、この内容もホームページで公表する。広く公表することで、透明性を高める内容を示している。

中島委員／承知した。次に27ページ、採択の仕組のスケジュールを伺いたい。今年度は次期教育プランの運用を開始するが、この教科書採択がどのくらい進んで進むのか気になる。今年度、教科書採択するのであれば、教育プランを反映した基準で各々の専門調査研究部会の方々に研究していただきたいし、私たちもそのように判断したい。並行できるスケジュールか否か、教えていただきたい。

学校教育課長／まず教科書のスケジュールだが、「採択」については7月18日、この教育委員会会議にて報告、説明することになっている。

また、教育プランについては、現在の教育大綱等と教育プランの方向性も踏まえて進めることに変わりはない。

最終的に、8月31日が採択の終了スケジュールのため、7月18日を目途に教育委員会会議で報告する。

中島委員／では、教育プラン自体の決定は少し先で、今までの総合教育会議で出た内容を加味して検討いただけるということか。ぜひそのように願います。

郷田委員／教科用図書採択方針（案）の2番目に、北九州市の地域的特性と児童生徒の実態等を考慮すると書かれている。

具体的な検討はこれから進むが、前回の採択と比べてどういった部分が変わってくるか、また、「時代の変化の中でこういうところを重視する」といったことがあれば、可能な範囲で聞かせていただきたい。

学校教育課長／まず、北九州市の地域的特性であるが、環境、地域柄、そして子どもたちの様子、実態等が挙げられる。

全国版でできている教科書なのだが、例えば、九州、北九州市の気候・風土に合ったような教材が取り上げられている等、授業での取り扱いやすさというのが1つ、例としてそういった視点もあるかと思う。

それから、北九州市が目指すSDGsの視点での子どもたちの育成、そういった観点もあろうかと思う。

子どもたちの実態を考慮し、「北九州市型外国語教育」で、自分の考えをより表現できる子どもの育成を目指しており、教科用図書の中でも活用、表現することを重視している。また、そういう学びに誘えるような内容も1つの視点である。

学校教育部長／補足させていただく。

4年前と劇的に違うのはICTの活用で、1人1台端末という環境に変わっている。もちろんICTの日常的使用を前提とした教科書の内容としており、最近ではQRコードで別資料に飛び、その資料をうまく活用できるか等、多様な学びが可能な教科書であることも特徴的である。

田島教育長／QRコードは文章ではなく、QRコードに飛ばないと中身が分からない。専門部会等で、そのQRコードの先まで確認した上で審査に進むのか。

学校教育課長／教科用図書の中から、どのような関連付け、どのような資料があるのかは、調査研究の中でしっかりと検証していく。

郷田委員／質問に対する回答については承知した。

教科担任制が進み、新採の方の割合が増え、働き方改革も行われる中で、教師側の視点について、何か特徴を盛り込まれているかを教えていただきたい。

学校教育課長／教えやすさでは、資料の例示の仕方、様々な学びに戻れる目次の仕組などの工夫があると、教師も関連付けた指導がしやすい。

また、保幼小連携、小中連携での学びの接続も大切であり、教科用図書の中で、そういった「連携以前の学習をもとに今のこの学習に繋がっている」というようなことが、教員にとっても生徒にとっても分かりやすい工夫がなされているものがある。

香月委員／「児童生徒の実態等を考慮する」とあるが、これはどのように把握されたのか、分かる範囲で教えていただきたい。

学校教育課長／実態の把握方法は様々ある。先ほどのインプット・アウトプットの話では、「表現力を伸ばしたい」という課題把握の1つに、全国学力・学習状況調査など各種調査がある。

子どもたちの生活実態を加味しつつ、学校での課題を先生方が理解している。調査研究部会、専門部会以外にも学校等で回覧を行って広く意見を頂き、どれがより相応しいかを個別に考えていく。

特別支援教育課長／特別支援学校や特別支援学級における児童生徒の実態の把握は、就学相談を受ける際に心理発達検査を受けるので、該当する結果に合わせた教科用図書を選定する。また、学校生活を送り学習を重ねる中で、その伸びをしっかりと把握し、次年度の教科用図書をどのように進め、選定するかを保護者の方と話した上で、個別の実態に合わせて採択・決定していくという流れである。

香月委員／特別支援学校については承知しているが、普通学級の児童生徒たちの実態把握は統一できるものではなく、難しい。その中で、専門調査の研究部会を踏まえた上で総括部会での討論ということだが、市民の意見は一体どこで聞くのか。

学校教育課長／教科書の展示をしており、展示期間は2週間程度、市内7か所で実施している。その間、市民の方々も閲覧して意見を書いていただけるようになっている。そういったところも踏まえ、意見として賜っている。

田島教育長／新しい教育プランをつくるスケジュールの中で、全ての子どもたちの意見を聞くという趣旨で、アンケートを取っている。子どもたちが感じていること、考えていることが、アンケートにはストレートに出ている。せっかくの機会なので、専門調査部会と総括部会委員には、アンケートに必ず目を通していただきたい。

学校教育課長／承知した。

原 案 可 決

(大坪委員入室)

(関係者以外退出)

(2) 非公開案件

その他報告①「次期教育振興基本計画の策定状況について」

企画調整課長が報告。

[報告要旨] 以下の項目について報告。

次期教育基本計画の策定状況およびパブリックコメントの実施について、常任委員会で報告する旨を説明。

報 告 終 了

4 閉 会

15:43 田島教育長が閉会を宣言